



プレールの公開提案授業をよこし...

八重山地区小学校体育研究会副会長 (石垣市立平真小学校教頭)

前三盛 敦

平成二十二年も残すところあとわずかととなりました。今年も様々な学習課題の解決のために様々な取り組みを展開してきました。先生方、本日に日々の教育実践お疲れ様です。

さて、平成二十二年度より、つまりあと三ヶ月後には、新学習指導要領が完全実施となります。各学校とも新教育課程の編成及び年間指導計画の作成に向けて本格的にスタートしたのだと思います。皆さん、体育科の改訂の趣旨や要点及び内容は理解できていますか？

私たちが小学校体育研究会は、子ども達に「基礎的な身体能力を身につけ、実生活において運動を豊かに実践していくための資質や能力の基礎を培う」ために、伝達実技講習会を開催したり、小体研新開を通して体育指導の動向などをお知らせしています。

去る十二月十日には、石垣小学校の半嶺当陽教諭による公開授業を通して、プレール運動系のネット型ゲーム『プレールボール』(三学年)を提案いたしました。これまでは、中学校のゲームの内容は、バスケットボール型「サッカー型」「バスケットボール型」というように、種目固有の型で構成されてきました。が、新学習指導要領では、攻守の特徴(類似性・異質性)や型に共通する動きや技能の系統性を身につける視点から「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」



の三つで構成され、その型に応じてボール運動を指導することになりました。そこで、これからの体育指導では、それぞれの型において、攻防の組み立てが大切になり、「ボール操作」(シュート・パス・キープ・サービース・返球・打球・捕球・送球)や「ボールを持たないときの動き」(空間・ボールの落下点・目標へ走り込むこと・味方をサポートすること・相手のプレーヤーをマークすることなど)に着目して指導していくことになりました。半嶺教諭が提案した『プレールボール』は、低いネットを挟んで、ボールをワンバウンドさせながらパスをつなぎ、ラストボールを相手のコートにアタックして得点を競うソフトなネット型の運動です。授業では、三年生の発達段階に合わせてボールをつないでラリーを楽しむことを中心に指

公開提案授業でのプレールボールの様子

導し、そのために、操作のしやすいバランスボールの活用やツリバウンスボールの活用など。子ども達は、ボールを打つ、パスの工夫をしながら、バウンスの名前を呼び合ったりしてラリーを楽しんでいました。これが、高学年に発展していくと、拾う(レシーブ)・アタックするためのつなぐ(パス)・攻撃するためのシュートなどの場面の捉えやポジショニング、味方のサポートなどがボールを持たないときの動きが広がり、戦術学習としても想像できなくなりました。また、ボール運動では、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することも大切になります。半嶺教諭は、運動が苦手な児童をラッキーマンとして活用したり、認めたいところを探し取り入れて、児童間の交流を深めていきました。



提案授業者・半嶺当陽先生(石垣小)

授業後は、琉球大学教育学部付属教育総合実践センターのAdvisory staff派遣事業できていただいた三輪一義教授(運動学)から「早い時期から高いレベルを求めず、三年生は三年生に合った指導を通して、取り上げる運動の楽しさや魅力を指導していくことが大切である」とことや「運動が苦手な児童を特別視することや、逆にクローズアップしてしまいう危険性」について指導助言をいただきました。半嶺教諭や八重山の先生方の体育指導にかけるといって感謝を受け、また次も参加したいとおっしゃって下さいました。今回の公開提案授業では、各学校より約八十名の先生方に参加していただき体育学習に関心の高さを感じるとともに本研究会活動を大いに盛り上げて下さったこと、ありがとうございます。ぜひ、各学校でそれぞれ工夫を加え、追試をしていただけたら嬉しく思います。最後に、ありがとうございました。公開提案授業・授業研究会並びに講演会の会場を快く引き受けて下さり、温かく歓迎して下さいました。田本由美子校長先生をはじめ石垣小学校の先生方に感謝申し上げます。二〇一一年も希望あふれるいい年でありますように...



琉球学教授・三輪一義先生

第31回沖縄県学校体育研究発表大会(宮古大会)

去る十一月二十六日(金)、宮古島市民劇場を主会場に「第二十一回沖縄県学校体育研究発表大会・宮古大会」が開催されました。本大会は、学校体育の充実・発展を図るための研究発表大会で、県学校体育研究連合会と県教育委員会が主催し、国頭、中頭、那覇、島尻、宮古、八重山の六地区の持ち回りで開催されています。(※平成二十五年度は八重山大会) 今年の研究主題は「運動の楽しさや喜びを味わい、健やかな心と体を育む体育学習のあり方」と設定され、協議が進められました。本研究会からも、会長の吉濱剛先生(石垣市立大浜小学校校長)をはじめ、理事の半嶺当陽先生(石垣市立石垣小学校教諭)、伊波勇史先生(石垣市立石垣小学校教諭)、亀川善朝先生(石垣市立宮良小学校教諭)が参加しました。午前中の全体会においては、東京学芸大学准教授の鈴木秀人氏が特別講演を行い、一九八〇年代後半から運動をする子どもとしない子どもの二極化が始まったと指摘(裏面へ続く...)。

祝 宮良勝也先生◇学校体育功労賞受賞!

摘した上で、「子どもの運動をめぐる環境は大きく変化している。学校体育を見直す部分がある」と話され、学校体育授業の実践的かつ多角的な研究を促しました。

午後、市内三校で公開授業が行われ、県内各校の体育教諭が資質の向上に努めました。さらに公開授業の後には、研究発表が行われ、県内各地の体育に関わる教諭が学校体育について研究した成果と課題を発表しました。

今回の宮古大会において報告された多くの成果は、今後、本研究会においても積極的に活用させて頂きたいと考えています。

☆☆☆☆

本大会においては、講演に先立ち、これまで多くの体育実践に励み、学校体育の充実・発展の寄与した者に与えられる県学校体育功労賞の授与式が行われました。その中、本研究会副会長の宮良勝也先生（登野城小学校教頭）が、本地区からは二年ぶりとなる沖縄県学校体育功労賞に輝きました。

宮良勝也先生おめでとうございます。

本研究会
公式ブログ



<http://syoutaiken.ti-da.net/>

◇◇本研究会の活動に関する情報を随時お知らせ致します。是非とも登録の上、ご閲覧下さい。◇◇

提案授業を参観して想うこと...

とチームでの役割に徹していた所でした。「欲張らない!」という授業研究会・講演の中で三輪先生の指導助言から、いろいろと考えさせられた有意義な時間でした。もう一つは、コーディネート・セッション運動という理論を学べたことです。

授業では、音楽を用いて、準備体操・基礎トレイニングと様々な場面で使われていたことや、「動き」にはいくつもの感覚が繋がって一つの大きな動きに反映すること等、体育の学習の新しいスタイルを見つけることができました。是非、今後の授業の参考に、児童一人ひとりが達成感や満足感を味わえる教材研究を進めていきたいと改めて感じた研究授業でした。

石垣市立八島小学校 教諭◇平地電樹

今回の半嶺先生の授業に参加し、二つの事を学ばせてもらいました。まず一つは考えさせられたこと。授業内容であったという事で、どうしても高いレベルを目指す学習内容以上の能力を求めがちな指導方法が今回の授業では、適切な指導計画のもと取り組んでいたことに感心しました。何よりも、児童がいきいきと楽しそうに個々の技術



学ぶ機会に...

講話の中では、「生涯を通じて、運動を楽しむ経験が大切となる」ということがありました。今回三年生の授業という点も、ボールを打ちつけることや、自分やチームに合ったためや課題をもつことといった、基礎的な内容を重点的に取り組ませました。三年生という発達段階を考慮し、今後につなげる基礎作りと、楽しさを味わわせるといったねらいを明確にもった授業作りであることがよく伝わってきました。これからの体育の授業を考える上で示唆をいただきました。

また、講演会の講師の三輪先生は、ハンドボールを通じた、大学時代の恩師でもあります。学校現場でお会いすることは初めてで、これまでと違った関係でつながりをもてたことを非常に嬉しく感じ、小体研の取り組みに感謝しています。

授業を公開してくださった当陽先生、講話をいただいた三輪先生、全体の企画・運営をしていただいた小体研のみなさん、本当にありがとうございます。

今回の公開提案授業づくりにおいては、授業者の当陽先生の提案のもと、吉濱剛会長、宮良勝也副会長、前三盛副会長にも指導案検討に関わっていただき、指導案を練り上げていくことができました(写真)。加えて、花城正憲先生(石垣小)には、授業者に寄り添うアドバイザー的な役割を担っていただきました。…今後においても、このような形で授業づくりや、その他情報交換ができるといいなあ…と感じる場面が多い今回の取組でした。

最後になりましたが…、今年の小体研の活動に参加された多くの皆さまに感謝致します。来年もよろしくお願ひします。



編集後記

学ぶ機会に...

四月に八重山地区に着任し、夏休みに行われた実技指導者講習会、公開提案授業・講習会と八重山地区小体研の取り組みに参加させていただきました。

今回の公開授業では、コーディネート・セッション運動やプレルポールといった、教育課程研や実技講習会で紹介された実践が取り入れられており、当陽先生の体育に対する熱意が感じられました。

後に行われた講話の中で、「生涯にわたり運動に親しむためには、発達段階に応じ運動を楽しむ経験を体験させる事が大切」という話がありました。まさに子ども達がプレルポールという教材を通して、チームで作戦を考える時も、相手チームとの対戦の時も心から楽しんでいられる様子が見られました。

また、講演会の講師の三輪一義先生は、大学時代の恩師で、在学中には、部活の監督として、ゼミの先生として多くのことを教えていただきましたが、このような形でまた新たなつながりを持ったことに大変感謝しています。今後もこの再会をきっかけに、多くのことを学んでいきたいと思ひます。

授業を公開してくださった当陽先生、講話をいただいた三輪先生、全体の企画・運営をしていただいた小体研のみなさん、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。

